



化学グランプリ二次選考 2014年 東北開催

「夢・化学・21」委員会と日本化学会が、全国の中高生に化学への興味・関心を喚起し、意欲・能力を高め、世界にも通用する若い化学者を育成することを目的として開催している化学グランプリは、1999年に始まり今年で16回目になります。筆記試験である一次選考は7月21日（月・祝日）に全国64会場で実施し、3,416名の中高生が参加しました。

その中から一次選考を通過した成績上位者74名が、8月22日（金）に昨年に続き2年目の開催となる東北大学川内北キャンパス・学生実験棟にて、実験をともなう記述式試験である二次選考に挑みました。二次選考は、東北支部協力事業であり、東北大学理学部・河野裕彦 教授（元東北支部支部長）を実行責任者として組織された実行委員により準備・運営しました。



今年の二次選考の問題は、一次選考で出題された錯体の問題と関連づけた作題になっており、分光光度計や簡易顕微鏡などを用いた実験を行い、結晶の謎に迫る課題に取り組みました。

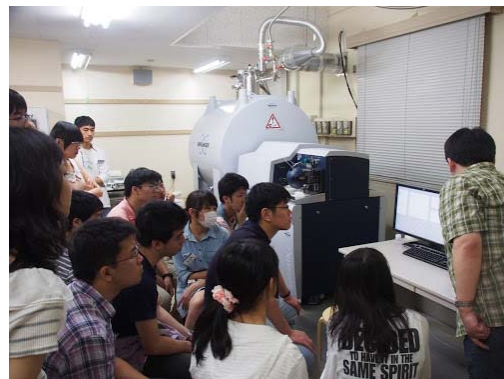


試験終了後、学生食堂を会場とした交流会を開催しました。受験生は部活動の紹介やその他の科学オリンピックへの参加状況などを報告し合うなど、非常に活発に交流していました。



なお同日、併催行事として、東北支部主催・教員交流会を山形大学理学部・栗山恭直 教授の主導により開催しました。

8月23日(土)には、東北大学理学部青葉山キャンパスにて、受験生を対象とした見学会および講演会を開催しました。見学会では、自然指標本館および巨大分子解析センターを見学しました。



講演会では、東北大学名誉教授である四ツ柳隆夫先生により「モノー化学システムを創る楽しみ、見つける楽しみ ～憧れを知るものが未来への扉を開く～」と題したご講演をいただきました。



その後、表彰式が行われ、東北ブロックから二次選考に進出した受験生2名は見事金賞に輝きました。

石垣 貴史（イシガキ タカフミ）さん 宮城県仙台第二高等学校

小山田 健太（コヤマダ ケンタ）さん 福島県立福島高等学校

